

高等学校新学習指導要領 国語について

1. 科目構成の変更

国語では必修科目・選択科目ともに大規模な科目構成の改編が行われます(図1)。特に必修科目としては、平成十一年告示の旧課程から設けられてきた「国語総合」がなくなり、「現代の国語」「言語文化」の二科目が新たに設けられます。

2. 本文構成の変更

各科目の学習指導要領本文においては、文部科学省の提唱する「資質・能力の三つの柱」に沿う形で、本文構成が変更されます(図2)。現行の国語総合で「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」として挙げられていた指導事項は、必修科目の「知識及び技能」の下に対応する項目が設けられました。

現行	改訂
国語総合 (4)	現代の国語 (2)
	言語文化 (2)
国語表現 (3)	論理国語 (4)
現代文A (2)	文学国語 (4)
現代文B (4)	国語表現 (4)
古典A (2)	古典探究 (4)
古典B (4)	

・ 太枠は必修科目
・ () 内は標準単位数

図1 科目構成の変更

現行 (国語総合)	改訂
1 目標	1 目標
2 内容	2 内容
<ul style="list-style-type: none"> — 話すこと・聞くこと — 書くこと — 読むこと — [伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項] 	<ul style="list-style-type: none"> — [知識及び技能] — [思考力、判断力、表現力等] — 話すこと・聞くこと — 書くこと — 読むこと
3 内容の取扱い	3 内容の取扱い

図2 各科目の本文構成の変更 「資質・能力の三つの柱」は、育成すべき資質・能力として「①知識及び技能」「②思考力、判断力、表現力」「③学びに向かう力、人間性等」を挙げる考え方。各科目で学習される「内容」は、このうち①・②に沿った形で示される。「内容」以下、各科目に対応する学習領域は図3参照。

3. 現代の国語

「現代の国語」は「実社会に必要な国語の知識や技能」を習得させることなどを目標として掲げた、二単位の必修科目です。国語総合の「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域から多くの内容を受け継いでいますが、次のように、学習指導要領の改訂趣旨を踏まえる形で、従来よりもきめ細かく指導事項や言語活動例が示されています。(傍線部は本欄による)

現代の国語 2 内容/B 書くこと/(1)
 ウ 自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方考えるところにも、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫すること。

国語総合 2 内容/B 書くこと/(1)
 ウ 対象を的確に説明したり描写したりするなど、適切な表現の仕方を考えて書くこと。

「読むこと」の教材としては、「現代の社会生活に必要なとされる論理的な文章及び実用的な文章」を扱うものとされています。言語活動例として「異なる形式で書かれた複数の文章や、図表等を伴う文章」を読むことも挙げられているので、教材としては大学入学共通テスト(↓p.8)に出題されるような、さまざまな形態の文章を

扱うことが考えられるでしょう。

なお、国語総合では「話すこと・聞くこと」「書くこと」について、配当時間の目安が示されています。今回の改訂では、古典探究以外の各科目について、「読むこと」も含めた配当時間の目安が示されています(図4)。

4. 言語文化

「言語文化」は「我が国の言語文化に対する理解を深める」ことなどを目標として掲げた、二単位の必修科目です。国語総合の「書くこと」「読むこと」及び「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域から多くの内容を受け継いでいます。

「読むこと」の教材としては、「古典及び近代以降の文章」を扱うものとされています。また、古典教材に関しては、従来の国語総合と同様に、「関連する近代以降の文章」を取り上げるものとされています。加えて、「日本漢文、近代以降の文語や漢詩文などを含める」という留意事項が盛り込まれました。日本漢文は、国語総合の学習指導要領には言及がなく、従来は古典A・古典Bで扱われていた内容であるため、今回の改訂から必修科目の内容として扱われる形になります。さらに、教材として必要に応じて「伝承や伝統芸能などに関する音声や画像の資料」を用いることができるものとされました。

科目	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	総時数
	現代の国語	20~30	30~40	
改訂	言語文化	5~10	40~45 (古典) 20 (近代以降)	70
	論理国語	50~60	80~90	140
	文学国語	30~40	100~110	140
	国語表現	40~50	90~100	140
科目	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	総時数
	国語総合	15~25	30~40	

図4 配当時間の目安

科目	話聞	書	読
現代の国語	○	○	○
言語文化		○	○
論理国語		○	○
文学国語		○	○
国語表現	○	○	
古典探究			○

話聞…話すこと・聞くこと
 書…書くこと
 読…読むこと

図3 学習領域の対応表

5. 論理国語

「論理国語」は「実社会に必要な国語の知識や技能」「論理的、批判的に考える力」などを育成することを目標として掲げた、四単位の選択科目です。現代文A・現代文Bから内容を受け継いでいる部分もありますが、「文章に含まれている情報の扱い方」に関する指導事項や、「書くこと」に関する指導事項・言語活動例が増補されています。

「読むこと」の教材としては「近代以降の論理的な文章及び現代の社会生活に必要とされる実用的な文章」を扱うものとされ、「現代の国語」を承けた内容になっています。また、必要に応じて「翻訳の文章や古典における論理的な文章」を用いることができるとされています。

6. 文学国語

「文学国語」は「生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能」「深く共感したり豊かに想像したりする力」などを育成することを目標として掲げた、四単位の選択科目です。現代文A・現代文Bから内容を受け継いでいる部分もありますが、「書くこと」に関する指導事項・言語活動例が増補され、「文学的な文章を書く」ことが指導事項として示されました。

「読むこと」の教材としては「近代以降の文

学的な文章」を扱うものとされています。また、必要に応じて「翻訳の文章、古典における文学的な文章、近代以降の文語文、演劇や映画の作品及び文学などについての評論文など」を用いることができるとされています。

7. 国語表現

「国語表現」は「実社会に必要な国語の知識や技能」「論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力」などを育成することを目標として掲げた、四単位の選択科目です。現行の「国語表現」の後継となる科目ですが、「実社会に必要な知識」という観点から、指導事項や言語活動例に手が加えられています。たとえば、言語活動例として新たに挙げられている「異なる世代の人や初対面の人へのインタビュー」「実務的な手紙や電子メールを書く」といった活動は、「実社会に必要な知識」を意識したものであるといえるでしょう。

8. 古典探究

「古典探究」は「先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め」ることなどを目標として掲げた、四単位の選択科目です。おおむね現行の「古典B」を承けた内容ですが、古典の内容を踏まえて「自分の思い

や考えを広げたり深めたり」するという観点から、指導事項や言語活動例に手が加えられています。

教材としては、従来扱われている「古典としての古文及び漢文」に加えて、「論理的に考える力を伸ばすよう、古典における論理的な文章を取り上げる」ものとされています。

9. 各科目に共通する事項

各科目では一貫して、読書に親しむことが目標あるいは指導事項として掲げられています。

各科目共通 1 目標 / (3)

言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

※古典探究のみ、「読書に親しみ」の部分を「古典に親しみ」とする。

読書によって人生を豊かにすることは、「資質・能力の三つの柱」のうち「学びに向かう力・人間性等」と関連して、今般の教育改革で一貫して重視されている要素です。国語科の学習が生涯にわたる読書活動に結びつくよう、各科目で繰り返し、読書に関する事項が記載されていると見てよいでしょう。(数研出版編集部)